

1 山川戦没者追悼式



開催概要（平成26年度）

歳事名：山川戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：山川文化ホール
 住所：鹿児島県指宿市山川新生町35
 （JR山川駅より 鹿児島交通「山川支所前」下車 すぐ）
 日時：平成26年10月22日（水） ※例年10月中下旬開催
 参列者数：約150人
 連絡先：山川遺族会 個人宅のため記載せず

式次第（平成26年度）

- | | |
|--------------------------------------|------------|
| 1. 開式のことば | 6. 献花 |
| 2. 一同拝礼 | 7. 式電披露 |
| 3. 黙祷 | 8. 一同拝礼 |
| 4. 式辞…山川遺族会長 | 9. 閉式の挨拶 |
| 5. 追悼のことば…指宿市長、指宿市議会議長
鹿児島県遺族連合会長 | 10. 閉式のことば |

式辞（平成26年度）

本日は、ここに第63回山川戦没者追悼式を執り行いましたところ、来賓ならびに遺族の方々多数ご列席いただき誠にありがとうございます。また、開催にあたりご尽力いただきました、指宿市役所および社会福祉協議会の関係者の皆様に篤く御礼申し上げます。

さて、追悼式の経緯を振り返ってみますと、昭和34年11月に当時の山川町長 伊佐丑之助氏を会長に、山川町戦没者慰霊塔建立期成会が発足しました。遺族会、町議会、傷痍軍人会、区長会、婦人会等のご尽力により、町内有志の方々から多額の寄付金が寄せられ、昭和35年9月、山川の町並みや鶴の港、錦江湾を望む愛宕山の頂に日露戦争以降の戦死者820柱の御霊が祀られた立派な慰霊塔が建立されました。

それ以降、当時の中間定三遺族会長に始まり歴代会長を中心に、山川町役場職員等の協力を得て毎年慰霊塔前にて神仏両方式の慰霊祭が執り行われて参りました。

しかしながら、遺族の高齢化が進み高台での慰霊祭執行は困難な状況となったことから、現在の文化ホールでの追悼献花方式へと形を変え続けてきております。

戦時中出征していく夫や息子、また父親を見送った日のこと、またその人達が骨となり帰ってきた日、それぞれに戦中戦後の辛く貧しく苦しかった時代のことは、筆舌に尽くせぬ思い出となって残っていることでしょう。

私の父も出征して一カ月でマニラ湾で魚雷攻撃を受けて撃沈され戦死しました。国民学校2年生の時、叔父に手を引かれて、二月田の旧指宿女学校講堂まで遺骨を引き取りに行きましたが、白木の箱の中に遺骨はなく、小さな木片が入っただけでした。その時の情景が今も心に深く焼き付いています。

その後自宅も焼夷弾により全焼するなど、夫も家も失った母が、他の多くの遺族がそうであったように、大変な苦勞に耐え私たちを育ててくれた恩を忘れることはできません。

母たちが、まだ2～300名健在だった頃、遺族会青年部による「母に感謝する集い」を開催していた際には、歌・踊り・琴の演奏・詩吟等多彩な出し物でのひと時を大変喜んでもらったのはわずかも恩に報いることになったのではないのでしょうか。

その母たちも今ではわずか10人余りになり、私たち遺児も来年は最も若い者でも満70歳を迎えます。

旧山川町民だけでの追悼式を続けることは難しい状況が差し迫っておりますが、御霊を慰め、二度と戦争のない平和日本を守っていくという誓いを新たにすることを継続していくことは、遺族に課せられた使命と考えます。

また、世界では各地の紛争やテロで家族を失い憎しみの連鎖を断つことのできない状況が続いていること、日本でも、今夏の広島土砂災害や、つい先日の御獄山の噴火など自然災害でたくさんの犠牲者が出ていることを思うと心が痛みます。

そのような中でも、私たちが平和に穏やかに過ごせていることをありがたく思い、皆様と共に祈ることができることに感謝いたします。

最後に、ご列席の皆様方のご多幸を心から祈念申し上げまして、式辞といたします。

平成26年10月22日
 山川遺族会長 藤坂 吉章

2 戦没学童慰霊之碑



基本情報

所 在：山川文化ホールそば（旧山川小学校跡地）
 住 所：鹿児島県指宿市山川新生町35付近
 （JR山川駅より 鹿児島交通「山川支所前」下車 徒歩1分）
 建 立 者：同級生男女一同、有志一同
 建 立 年：平成17年6月
 連 絡 先：個人であり記載せず

碑 文

【表】

戦没学童慰霊之碑

昭和二十年六月二十日

第二次世界大戦中にアメリカの
 グラマン戦闘機の機銃掃射により
 山川小学校生徒（高等科一年）の
 五人が犠牲に一人が負傷

（故人名）

【裏】

建立協力者
 同級生男女一同
 有志一同
 遺族
 （個人名）

平成十七年六月吉日

3 霧島市戦没者追悼式



※写真提供 霧島市

開催概要（平成26年度）

歳事名：霧島市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：隼人農村環境改善センター
 住所：鹿児島県霧島市隼人町内山田1-14-10
 （JR隼人駅 徒歩5分）
 日時：平成26年7月25日（金） ※例年7月下旬～8月上旬開催
 参列者数：約200人
 連絡先：霧島市 保健福祉部 保健福祉政策課 0995-64-0904（直通）

式次第（平成26年度）

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 開式のことば | 7. 献 詠 |
| 2. 拝 礼 | 8. 献 花 |
| 3. 国 歌 斉 唱 | 9. 式 電 披 露 |
| 4. 黙 と う | 10. 拝 礼 |
| 5. 市 長 式 辞…霧島市長 | 11. 閉 式 の こと ば |
| 6. 追 悼 の こと ば…霧島市議会議長 | 12. 記 念 演 奏 会 |
- 霧島市遺族会連合会会長

式 辞（平成26年度）

本日ここに 来賓各位 ご遺族の皆様方をはじめ 多くの方々にご参列賜り 平成26年度 霧島市戦没者追悼式を厳粛な中にも盛大に挙行できますことに 心から感謝申し上げます
 先の大戦において 家族を案じ 祖国の興隆を念じつつ 戦地にたおれた御霊と ふるさとで戦禍に遭い帰らぬ人となった御霊に対し 謹んで哀悼の誠を捧げます
 先の大戦から早や69年が過ぎ去ろうとしております
 今の世に生きるすべての人々がこぞって 数多の尊い命を 人柱として失った 凄惨な過去に 心静かに思いを馳せ 自らに問い そして自戒する時季を迎えました
 想像を絶する犠牲と 筆舌に尽くし難い苦難の歴史を経て 今を生きる私たちが 平和 秩序 自由 繁栄を享受できていることを 改めて深く認識しなければならない時季であります
 戦地はもとより このふるさとも流れた おびたしい血と涙の先に 今日私たちがいることを 胸に深く刻んで 霧島市民とともに 静かに頭を垂れたいと思います
 私は学生時代に 日本青年遺骨収集団の先頭に立ち 自らの手で幾千もの遺骨を収集し 茶臼に付し 千鳥ヶ淵に納めた経験を持つ一人であり 戦争のいわば追体験とも言える 貴重な体験を通して 戦争の悲惨さや恐ろしさを深く認識しており 二度と戦争を繰り返してはならないと 固く念じております
 戦争経験者は 高齢化とともに徐々に少なくなりつつあり 歳月の経過に伴う戦争の風化が懸念されるところであります 戦争による数々の悲劇を それぞれの立場で後世に伝承すると同時に これまで築き上げてきた不戦の誓いと 平和を希求する歩みを 社会全体で再認識しながら 惨劇を繰り返さないための努力をたゆみなく続けていかなければなりません
 さて 先人が自らの命を投げ打って 守り抜こうとした 私たちのふるさと霧島市は 約13万人の人口を擁する 鹿児島県内2番目の都市として 観光・産業に代表される 地域の特性を発揮しながら 今日まで発展してまいりました
 一方では 家畜伝染病 集中豪雨 新燃岳の大噴火など 自然の猛威が立ちはだかることもありましたが 迅速に対策を講じながら 最小限の被害にとどめてまいりました
 さらに今 霧島連山や錦江湾を取り巻く自治体との結びつきを強め より広域的な課題解決につなげる取組みや 自然遺産の価値を国内のみならず 世界に知らしめる取組みなどを通じて ふるさとの魅力を発信しながら 人と自然が輝き 人が拓く 多機能都市の実現を目指しております
 今年は 霧島山が日本最初の国立公園に指定されてから80周年に当たり 戦後七十年を教える来年は 霧島市誕生100周年を迎える 節目の年でもあります
 その記念すべき年に 文化の国体と称される 国民文化祭が 本市で開催されることとなっており すでにこの歴史的な取組みに向け準備を開始しているところであります
 今後におきましても 霧島市の持つ魅力・地域力を最大限に活かしながら 市民一丸となって 日本一のふるさとづくりを目指して邁進いたしますとともに 私たちが引き継いだ この悠久のふるさとを 平和とともに 次世代に継承していく努力をいたします
 結びに 今を生きる者として 改めて平和への決意を新たに し 恒久平和の確立と 心豊かに生き生きと暮らせるふるさとを築き上げていくため 全力を尽くしてまいりますことを ここにお誓い申し上げますとともに 御霊が安らかに鎮まり賜い ご遺族をはじめ 霧島市民へのご加護を賜りますことを 祈念いたします
 式辞といたします

平成26年7月25日
 霧島市長 前田 終止